

茨城県行財政改革推進懇談会（第49回）議事要旨

（1）第6次行財政改革大綱(案)について（資料1，2により事務局が説明）

（委員）

- ・ 今回の大綱案は、第一に昨年度より開始された茨城県の総合計画を行財政の面からしっかりと支えていくという視点。そして第二の点として、昨年3月11日の東日本大震災からの復興、そして新たな発展に取り組んでいくという視点を最重要の柱としている。依然として国と地方の財政事情は厳しく、経済社会状況の改善には厳しい状況が続いている。こうした中で、困難な状況に立ち向かうためのキーポイントとして、今回の大綱案では、第一の柱として、県庁改革を掲げている。それは、厳しい環境に立ち向かい、県民の行政への期待を実現するためには、何よりも県庁職員、そして組織の能力と資質をさらにグレードアップして、その機動性・効率性をさらに向上させることが求められているからだと思っている。専門部会の議論では、県民の期待も込めて、さらにスピード感を持った取り組みを望む厳しい意見もあった。

（委員）

- ・ 職員数の削減に取り組んできているが、職員一人あたりの県民の数というのはどれくらいになっているのか。また、全国での順位は、どれくらいなのか。

（事務局）

- ・ 本県の一般行政職員1人あたりの県民人口は、平成23年度で595.5人となっています。また、この全国での順位は政令指定都市を有しない都道府県の中ではトップであり、全国1位のスリム度になっています。

（委員）

- ・ 厳しい数値目標をしっかりと入れたということで、今までより一歩進んだ大綱になっている。なかなか難しいとは思いますが、ぜひ実現してほしい。

（委員）

- ・ 課題がたくさんあるが、まずは震災からの復興が最重要。基本理念に従って、改革の視点と4つの改革プログラムに則り、多くの課題がある中ではあるが、選択と集中でしっかり取り組んでほしい。

（委員）

- ・ アンバランスになっている職員の年齢構成を平成28年にはバランスがとれるように改善していくとのことであるが、職員の採用の年齢幅を広げれば、より早期に実現できるのではないかと。

(事務局)

- ・ 専門部会でも、社会人採用的なことを考えたらどうか、という意見もありましたので、そうした取り組みも新大綱に盛り込んでいます。新大綱の推進期間であるこの5年間で年齢構成のバランスがとれるように取り組んでいきたいと考えています。

(委員)

- ・ 専門部会でいろいろ議論してきたことや、募集した県民の意見も反映されており、非常に良いものができたと思っている。特に、これまでは、定性的にしか測れなかった取り組みに対しても、できる限り目標数値を入れ、定量的に評価できるようにしており、また、最終目標数値、さらには中間年度の目標数値を入れたということで、非常に分かりやすく、そして目標管理という面でもきちんとできるようになっていると感じる。
- ・ これまでの議論の中で、出資団体を48団体から30団体に削減する目標は非常に難しいのではないかという意見もあったが、非常に重要な取り組みという意見もあったので、ぜひ、やり抜くという気持ちを持って目標完遂に向けて対応してほしい。

(委員)

- ・ 4つの改革の中で、県庁改革を柱のトップに置いているというところが非常に良いと思う。「改革を支える足腰の強い県庁づくり」なしには、今回の大綱のスローガンである「”生活大県いばらき”を実現する少数精鋭の体制づくり」の実現は困難である。
- ・ また、目標が達成できるようにしていきつつ、推進状況の点検及び公表をしっかりとやっていけば、きっと改革も形だけでなく、実際にしっかりとしたものになっていくと思う。
- ・ 県庁改革に特に力入れ、自らを改革していくことで、財政構造改革や出資団体改革、分権改革の推進にも結びつけてほしい。

(委員)

- ・ 去年の震災により、本当に今まで前例がない状況の中、これだけのものをまとめていくことは大変なご苦労だったと思う。
- ・ 今回、これだけ多くの数値目標を設定している中には、非常に数値化しづらいものもいくつか含まれていると思うが、それを敢えて数値化するということで、県の職員、それから県民も含めて外部の方々に、どういったところを目指しているのか、というところが分かっていただけの大綱になったのではないか。数値化しづらいという批判があったかもしれないが、そこを敢えて入れたことは良かったと思っている。

(委員)

- ・ 県庁は規制するだけが役割ではないので、様々な主体と協力したり、あるいは行政内での壁をぶち破るなどして、県民のために、県民と一体になって県を豊かにするというものに向けて取り組んでほしい。
- ・ 我々委員の意見も取り入れて、弾力的な行財政改革大綱ができている。その実現を心から期待している。